

## 現職教員研修②を実施しました！

令和6年10月12日(土)、上田女子短期大学准教授 千葉直紀先生を講師としてお迎えし、現職教員研修②をキッセイ文化ホールで実施しました。研修のテーマは「子ども真ん中社会を問う～激動の時代にヒトがより豊かに育つために必要な考え方は～」です。以下に研修後のレポートでお書きいただいた内容を紹介します。



### <研修から学んだこと>

- 初めに「幸せとは…」のテーマをいただき、今の子ども達にとって幸せとは何だろう？そして大人になっていく中で、子ども達が大人になることに憧れを抱いているのか？その見本になっているのか？保育の中での子どもの姿と照らし合わせていく中で、見た目だけでなく、子ども達一人一人の内面を探り、心の声(本音)を聞いていくことの大切さを改めて感じました。
- 現状の保育は、子ども中心ではなく大人中心になっているのではないかと感じました。日頃保育をしている中でも危ないから子ども達のやりたいことをさせられない現状があります。何か活動する時、保育者が全て決めるのではなく、子ども達の「やりたい」の声を拾っていき活動に生かすことで、主体性や自由な保育ができるのではないかと思います。
- 大人の意見だけでなく、友達からの共感からも成長していくので、すぐに大人が声をかけるのではなく、見守ることも必要だと思いました。
- グループの方との話の中で、同じ悩みを抱いていたり、またその悩みに対して“私はこんな風にしてみたらこんな姿に繋がったよ”と新しい方法を教えてくださったりして、とても実りある研修でした。経験のある先生方の“大丈夫だよ”という言葉が、自分の保育で不安に感じていた部分が少し軽くなり、明日からの保育で、同じクラスの先生とも共有していきたいと思いました。
- 「やりたくない」「どうしてもたたいてしまう」そんな子ども達の目に見えない背景(教師の想定外の)を丁寧に感じ取って理解していくには、自分自身に焦りがあったり余裕がない状態だったりすると難しいと感じました。保育がいっぱいいっぱいになっていたり、教師の思い通りにしようとしてしまったりすると、一方的な指示も多くなり、子ども達と向き合って対話ができないと思います。対等性の関係を築き、日頃から意識して安心感のある土壌づくりを心掛けていきたいと思いました。
- 発達を促すことばかり考えていて、子どもの声を聴けていなかったかもしれないことに気づかされました。日々の保育が忙しく自分に余裕がなく、子ども達の心の声をきちんと聞いていなかったと反省しました。
- 自由あそびが盛り上がっていたら、そのまま継続できる環境を作って、子どもがやりたい！できた！という色々な気持ちを持ってもらえるような保育にしたいと今回の講義や先生方との話から思いました。
- 子どもの思いを知りたい、その子の考えている事をきちんと理解したい、そこからでなければ子どもとの本当の関係性は築けないと思いました。聞いた気持ちになっている自分が一番怖いです。

千葉先生がご講義の中で引用された、加藤繁美先生のご著書「保育の中の子ども声」に次のような一節があります。「子どもは外から働きかけられて自分を変える(発達させる)存在ではなく、あくまでも自分自身の内面のたたかいをへて発達する存在なのです」

子どもの理解をもとに、子どもの内面にどう働きかけ子どもの発達を引き出す支援するかについて、考え実践することが私たち保育者の役割なのだと感じました。(専門員)

